

居宅介護 暮らしどう支える

福祉関係者 長野で課題学ぶ

居宅介護を地域でどう支えるかを考える福祉関係者の研修会が、長野市内であった。ごみ出しや掃除、長時間の通院の付き添いなど介護保険が適用されない支援の需要が高まっている中、誰がどう担えばいいのか。こうした文書を有償の介護保険外サービスとして提供する介護事業者の取り組みなどを学んだ。

「ケアの質が落ちる」との指摘もある。

長崎県では、同県介護支援専門員協会と介護サービス大手の「ツクイ」（横浜市）が連携し、通院支援などを有償の介護保険外サービスとして提供する取り組みを始めている。同協会の七種秀樹会長（長崎県）は、ケアマネが無償で生活支援まで担う状況の問題視し「手を打たないと大変なことになる」と話した。

介護保険外サービスの提供に対し、ツクイの担当者らは「利用者のお金がかかる」という心の壁を突破しなければならぬ」と説明。「保険外サービスを含めて生活が成り立つ」という意識を社会で高める必要がある」と課題を語った。

研修会に先立ち、募参りの同行などを介護保険外サービスとして実験的に提供した長野県内の事例報告もあった。安曇野市の安曇野南介護相談センターのケアマネ二村高明さん（62）は、高齢女性の自宅の衣替えをデイサービス施設の職員に依頼。二村さんはこれまでその場しのぎで自分が対応してしまっていたと省みつつ、「保険外サービスという案を提供できるのは安心」と語った。

長野県介護支援専門員協会の小林広美会長は「暮らしを守るためにどう分担できるか、今後も考え、情報発信していきたい」と話した。

研修会は長野県介護支援専門員協会が主催。会場で約80人、オンラインで約300人の福祉関係者が聴いた。

長野市「子育てひろばベビーマッサージ」10月15日午前9時40分、篠ノ井交流センター。未就園児親子が対象で定員10組（市在住、在勤者優先）。無料。バスチャールを持参する。申し込みは同センター ☎026・292・2121。

イベント

長野市「太極舞」10月1日～来年3月18日の木曜（全12回）午後7～8時、南部勤労者活躍支援センター ☎026・293・4435。市在住、在勤者が対象で定員16人。申し込みは受講料6960円を添えて会場窓口まで。

教室

介護保険外サービスを提供した事例を紹介するデイサービス施設の職員（奥左）

